

イタリアンライグラス 「サクラワセ」 の特性と利用

広島県立畜産試験場

栗本省二



はじめに

イタリアンライグラスは、栽培が容易で、しかも秋冬作の飼料作物の中では最も多収で安定した収量の確保できる作物である。

畑はもちろんのこと、水田でも比較的安定した収量が得られる。

利用についても、生草・サイレージ・乾草と幅広く利用でき、品種によっては、春早くから利用できる極早生の品種から、周年ないし2年程度の短年利用のできる品種までである。

また、DCP や TDN 含量も高く、家畜の嗜好性もよい、すぐれた粗飼料である。

一方、最近では高栄養粗飼料としてホールクロップサイレージが注目され、春夏作のトウモロコシの栽培面積が増えつつある。こうした背景のなかで、年間を通じて高収量を確保するためには、トウモロコシと組み合わせる秋冬作の作物が問題となっている。その作物としてイタリアンライグラスは適しているが、ホールクロップサイレージ用トウモロコシの高位安定生産を行うためには、品種の選択はもちろん、播種期も重要な問題である。早く播いて雌穂重割合の高い高品質のサイレージ用材料を生産するとともに、収穫期の台風による倒伏を回避し、安全な栽培をするためには、4月中旬から5月上旬までに播種する必要がある。

従って、トウモロコシの前作としては、この時期までに収穫可能なイタリアンライグラスの極早生種が望ましい。

トウモロコシの生育に必要な温度は10℃以上とされており、日平均気温が10℃になるのは、大体ソメイヨシノ（サクラ）の満開期ごろで、この時

期が播種期の早限であり、これより1週間から10日ぐらいの期間が適期となる。この時期は地域によって異なるが、4月中旬から5月上旬ごろとなり、このころまでに収穫できるイタリアンライグラスの品種の出現が多く、畜産農家に望まれている。

広島県畜産試験場では、昭和59年度より「飼料作物優良品種普及促進事業」をとり入れ、イタリアンライグラスの優良品種選定調査を実施しており、このなかで、前述の要望に^{こた}えられる品種として「サクラワセ」が注目された。

まだ、この事業も緒についたばかりであるが、昭和59年度の品種選定調査の概要を中心に「サクラワセ」について紹介する。

イタリアンライグラス品種選定調査の概要

供試した品種は、現在市販されている品種のなかから、周年または短年利用型の品種を除いた32品種を10月15日に播種した。発芽及び初期生育は、おおむね全品種とも良好であった。

なお、本稿においては前述したように、トウモロコシの安全多収栽培を前提として、5月上旬までに出穂期に達し、刈取りが可能な極早生及び早生の品種について記述する。

品種選定調査の経過と結果

供試32品種中、5月上旬までに出穂期に達し、刈取りの出来た品種は10品種で、その結果は表1、2に示した。

昨年の冬は、12月下旬から1月下旬にかけて、平均気温が平年値に比較して若干低かったほかは、おおむね平年並か若干高く経過し、降雪も少なかった。そのため、イタリアンライグラスの主要病害

表1 発芽及び生育状況

(広島県畜産試験場)

項目 品種	発芽期 (月・日)	発芽の 良 否	越冬前 の草勢	越冬後 の草勢	出 穂 期 (月・日)		出穂期草丈 (cm)		倒 伏		病 害	
					1 番	2 番	1 番	2 番	1 番	2 番	1 番	2 番
サクラワセ	10. 23	中	中	やや良	4. 17	5. 9	79	77	無	無	中	無
ミナミワセ	10. 23	中	不 良	やや良	4. 24		78		無	無	中	
メリット	10. 23	やや良	中	やや良	5. 1		104		微		少	
ワセユタカ(標)	10. 23	やや良	良	やや良	5. 1		113		微		無	
ワセアオバ	10. 23	中	中	やや良	5. 2		118		微		無	
新 潟 早 生	10. 23	中	中	やや良	5. 2		108		少		少	
ワセホープ	10. 23	中	中	やや良	5. 9		138		甚		無	
ヒーロー	10. 24	中	中	やや良	5. 9		125		中		無	
ジャイアント	10. 23	中	中	やや良	5. 9		120		甚		無	
スーパーワセ	10. 23	中	中	中	5. 9		119		多		無	

注) 播種期 10月15日, 出穂期=刈取り期, 病害:雲形病。

表2 生草及び乾物収量

項目 品種	生草収量 (kg/a)			平均乾物率(%)		乾 物 収 量 (kg/a)				1 日 当 り 乾 物 収 量 (g/a)
	1 番	2 番	合 計	1 番	2 番	1 番	2 番	合 計	対 標 比	
サクラワセ	373	231	604	17.7	12.9	65.8	30.0	95.8	91%	465*
ミナミワセ	511		511	15.7		78.8		78.8	75	413
メリット	628		628	17.7		110.9		110.9	105	560
ワセユタカ(標)	565		565	18.6		105.2		105.2	100	531
ワセアオバ	558		558	18.7		103.6		103.6	98	521
新 潟 早 生	563		563	18.3		102.2		102.2	97	514
ワセホープ	632		632	23.9		109.4		109.4	104	531
ヒーロー	663		663	15.7		104.0		104.0	99	505
ジャイアント	748		748	13.7		101.4		101.4	96	492
スーパーワセ	679		679	15.3		102.6		102.6	97	498

注) *1~2番合計。

である褐色小粒菌核病(雪ぐされ病)の発生は認められなかった。

3月中旬ごろから、気温の上昇に伴い草丈の伸長も旺盛となり、4月下旬ごろより、一部の品種を除いて倒伏が始まった。ワセホープやジャイアントは甚大であった。これら品種は、下葉が黄化腐敗するものも見られた。

病害虫の発生は、褐色小粒菌核病の発生は認められなかったが、4月上旬ごろから雲形病が2,3の品種に認められ、とくにサクラワセとミナミワセに被害が大きかった。

この病害は、オオムギやオーチャードグラスなどでは古くから知られている病害であるが、イタリアンライグラスでは比較的新しい病害で、特徴としては、葉身上に茶褐色の紡錘形または楕円形の病斑が重なって雲のような形をつくり、次第に拡がり、枯れて行く。畑全面に発生することは稀で、局所的に発生する。

刈取りは、出穂期に行なった。最も早く刈取りが

出来たのはサクラワセで4月17日に、次いでミナミワセは1週間遅れて4月24日であった。そのほかの8品種は5月上旬であった。

a 当りの乾物収量は、メリットが最も多く111 kgであり、最も少なかったのはミナミワセの79 kgであった。サクラワセは2回刈りが出来、一番草が66 kg、二番草が30 kgで、合計96 kgであった。

標準品種ワセユタカに対し、メリットが5%、ワセホープが4%多かった。他の7品種はいずれも少なかった。しかし、ミナミワセを除くと10%の範囲内であった。

トウモロコシの前作に最適

サクラワセの収量は多くはないが、出穂期が、標高320mの当场で、4月中旬と他の早生品種に比較して1週間から3週間早く、4月中に刈取りが出来るという大きなメリットがあり、サクラワセの低収は、後作のトウモロコシを4月から5月上旬の早播きによる多収で十分カバー出来、年間収量

の安定多収と高品質の生産が可能と考えられた。

サイレージ、乾草調製に最適

水田裏作用として育成されたミナミワセよりサクラワセは、出穂期が1週間程度早く、ソメイヨシノの満開期とほぼ一致し、4月中旬には刈取りが出来、更に5月上旬には2番刈も可能である。

草丈はミナミワセ程度の80cm前後で余り長くなく直立型で、葉幅は狭く、茎も細いが、倒伏はなく、安定した品種と言える。

また、比較的乾物率が高いので、サイレージ調

製における予乾作業も容易であり、乾草調製でも有利な品種と考えられる。

1年の結果で十分とは思われないが、サクラワセは、トウモロコシの前作として極めて有望な品種と考えられる。また、最近水田においては稚苗移植の普及により、田植が4月下旬から5月上旬と早くなっており、水田裏作としてのイタリアンライグラスの栽培はほとんど見られなくなったが、サクラワセの出現によって、水田裏作が可能となり、土地の高度利用と粗飼料確保と一石二鳥の効果が期待できる。

イタリアンライグラス「エース」の特性と利用

鹿児島県農業試験場大隅支場

宮下茂樹

はじめに

鹿児島県では、昭和61年3月に飼料作物奨励品種審査会を開催し、イタリアンライグラスほか4作物の改廃を行なった。

飼料作物についても、各作物、品種ごとに生育特性が異なり、また、利用上の特性もしばしば異なることが多い。従って、飼料作物の栽培に当たっては、その作物・品種の特性を十分に把握して、それを有効に利用することにより、栽培目的を最大限に発揮させることが必要である。

このような意味から、ここでは新しく奨励品種

表1 鹿児島県における飼料作物の作付状況

春 夏 作		秋 冬 作	
種 類	面 積	種 類	面 積
根 菜 類	871.6ha	根 菜 類	771.1ha
実とりトウモロコシ	48.6	実とりイネ科	1,642.8
ローズグラス	1,493.4	マメ科牧草	2,736.8
その他暖地型牧草	118.8	混播牧草	935.4
青刈トウモロコシ	4,164.2	青刈エンバク	5,053.2
テオシント	961.4	イタリアンライグラス	11,732.8
青刈ソルゴー	4,591.2	サイレージ用大麦	314.7
その他青刈イネ科	1,459.0	その他	868.8
計	13,709.0	計	24,055.6

(昭59. 県畜産課)

に採用されたイタリアンライグラスの「エース」について、その生育特性と若干の栽培体系を述べて、参考に供したい。

1 飼料作物の栽培状況とイタリアンライグラス

鹿児島県は全国有数の畜産王国を誇り、特に、和牛の飼育において全国第1位を占めている。従って、飼料作物の栽培面積も広く、表1に示したとおり、春夏作で13,700ha、秋冬作24,000haで、延面積は37,700haにも達している。このうち、春夏作ではトウモロコシとソルガムが主体であるが、

秋冬作ではイタリアンライグラスが断然他の作物を押え12,000ha近くが栽培され、2位の青刈りエンバクの栽培は5,500haに過ぎず、イタリアンライグラスは秋冬作の最も重要な作物である。

一方、これらの作物の利用状況をみると、春夏作のトウモロコシは、若干の青草利用はあるが、そ